

令和2年度事業計画書



優しさと感謝の気持ちを込めて

社会福祉法人 瑞光会

袖ヶ浦瑞穂特別養護老人ホーム

瑞穂特養ホームショートステイ

瑞穂デイサービスセンター

地域包括支援センターのランチ袖ヶ浦瑞穂

令和2年度事業計画目次

袖ヶ浦瑞穂特別養護老人ホーム	1
1、運営指針	2
(1) 基本理念	2
(2) 介護理念	2
(3) 介護の基本姿勢	2
(4) 今年度の重点取り組み事項	2
1) 職員の資質向上	2
2) 接遇サービスの質の向上	3
3) ネットワークづくりの推進	3
4) リスクマネジメント	3
5) 身体拘束の廃止	3
6) 感染対策	3
7) ユニットケアの構築	4
8) 職員の確保	4
9) 本部との連携強化	4
10) 利用者の娯楽・外出機会の確保	4
11) 地域貢献事業	4
2、各事業	5
(1) 利用者サービス計画	5
1) 利用者日課表	5
2) 利用者週課表	6
3) 年間季節行事	7
(2) 生活援助計画	8
1) 個別援助の充実(介・看・栄)	8
2) 食事介助(介・看・栄)	8
3) 排泄介助(介・看)	8
4) 入浴介助(介・看)	8
5) 洗面介助(介)	8
6) 整容介助(介)	9
7) 移乗介助(介・看)	9
8) 洗濯介助(介)	9
9) 清掃・居室内整理(介)	9
10) 利用者の健康管理(介・看・栄)	9
11) 機能回復訓練(介・看)	10
12) 趣味・生きがい活動(介)	10
13) 喜ばれる食事の提供と栄養相談(栄・看・介)	10
(3) 介護支援計画	11
(4) 防災計画	12
1) 防災訓練計画	12
2) 防災委員	12
(5) 会議	13
1) 運営会議	13
2) 職員会議	13
3) ユニットリーダー・フロアー会議	13
4) ケースカンファレンス	13

(6) 委員会	13
1) 身体拘束廃止推進委員会	13
2) 安全対策委員会	13
3) 感染委員会	13
4) 食事に関する委員会	13
5) 排泄に関する委員会	13
6) 入浴に関する委員会	13
7) 防災委員会	13
8) 物品に関する委員会	13
9) 行事委員会	14
10) 入所検討委員会	14
11) 個人情報保護推進委員会	14
(7) 実習生受入れ	14
(8) 研修計画	14
1) 施設内部研修	14
2) 施設外部研修	15
(9) 家族・地域社会との交流	15
1) 家族との交流	15
2) ボランティアの育成	15
3) ボランティアの活動内容	15
4) 地域社会との交流	15
(10) 職員の福利厚生	16
1) 定期的健康管理	16
2) 健康増進	16
3、職務分担表	16
瑞穂特養ホームショートステイ	17
1) アセスメントの体系化及び契約書の整備	18
2) 利用申込	18
3) 緊急時対応	18
4) 短期入所者施設サービス計画書	18
瑞穂デイサービスセンター	19
1 事業目標	20
2 事業内容	20
(1) 利用者確保	20
(2) 個別ケアの充実	20
(3) 健康管理と保養	20
(4) チームワークの確立	20
(5) 職員研修の推進	20
(6) 生活援助計画	21
(7) 会議	22
(8) 研修計画	22
(9) 家族・地域社会との交流	23
(10) 職員の福利厚生	23
(11) レクリエーション年間計画	23

地域包括支援センターのブランチ袖ヶ浦瑞穂	24
1 事業目的	25
2 業務内容	25
(1) 基本事業	25
(2) 加算事業	25
(3) 委託料	25
(4) 利用対象者	25
(5) 職員の配置	25
(5) 業務時間	25

袖ヶ浦瑞穂特別養護老人ホーム

令和2年度 袖ヶ浦瑞穂特別養護老人ホーム事業計画

1, 運営指針

(1) 基本理念

老人福祉法第2条に基づき、「老人は多年にわたり社会の発展に寄与してきた者として敬愛され、かつ健全で安らかな生活を保持する」すなわち、基本的人権の尊重と生命の安全を図りながら、人間愛に満ちた福祉を行うことを施設運営の基本理念とする。

(2) 介護理念

「組織は人のために存在し、われわれは人のためになる存在でなければならない」利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートし、日常生活の中に楽しみ・生きがい・感動があり、声を出して笑っていただける有意義な毎日が実現できるように積極的に支援していく。又、人と人との心の触れ合いや繋がりを大切にしたりやさしく思いやりのある支援を行うよう努める。

(3) 介護の基本姿勢

基本理念、介護理念を実現するにあたり、日々の生活の中で優しさと感謝の心を持ち接する事を基本姿勢とし、以下の項目を実践することとする。

- 1) 安全性…当たり前のこととして常に安全に目を配る
- 2) 礼儀正しさ…すべての利用者、ご家族、各関係機関の方々へ親しみのある礼儀正しさを持つ
(笑顔・挨拶・アイコンタクト(相手の目を見て対応する))
- 3) パフォーマンス…オンとオフの切り換えを実践する・身だしなみを整える
- 4) 効果…チームワークを大切に、どうすれば利用者の不満をカバーできるかを考え行動し生産性の向上に取り組む

(4) 今年度の重点取り組み事項

- ・ユニットリーダーを軸にユニットケアのビジョンを実現するための目標を設定し、全職員が意思統一できる組織作りを展開し、各々が目指す介護へ近づけるよう取り組んでいきます
- ・法令遵守、利用者の安心、安全なケアの実施と広域型特養のニーズを果たすべく受け皿として地域に根ざし、地域に信頼のある施設運営を展開し、入所稼働率、職員定着率の維持、向上に努め、全職員の資質向上に重点を置き取り組んでいく。
- ・記録等、事務作業の重複事項の見直しと、各部署間の申し送りの簡略化、及びICTの活用を普及し生産性を上げる。

1) 職員の資質向上

常に利用者の満足を得られるサービスができるよう、日々向上心を持って対応すると共に、令和2年度も引き続き職員の教育体制を充実させ、内部・外部研修等により、職員の資質と接遇の向上を図っていく。

① 外部研修

積極的に外部研修に参加し、他施設、他業種間での情報交換の場としても機能させ、その内容については研修報告としてレポート、ならびに発表の場を設け、全職員に周知させ、専門職としてのスキルアップを図っていく。

② 接遇マナー

利用者において安心して過ごせる生活環境を整備する事は最重要である。その中でも言葉遣いにおいて利用者に配慮した正しい言葉を使う意味を職場全体で理解することが不可欠である。施設職員全員の意識の徹底や、再確認を行い、内部・外部研修、教育を継続して行い、接遇マナーの向上を図りたい。

2) 接遇サービスの質の向上

職員において接遇の質の向上に努めるために、接遇・言葉使いにおいては接遇委員会で目標を立て、施設内に掲示するなどして意識を持つように心がける。また、施設内研修にて君津信用組合より接遇についての講師を招き、より意識を高め、共通認識を互いに持ち注意し合うことで向上、改善していく。又、利用者だけではなく、ご家族、来客に対しても同じような態度、気持ちで接する事を心がけ目配り・気配りを実践する。必要に応じて施設長、事務長が指導できる体制を整えていく。又、介護の基本に立ち返り、下記項目については必ず実践することとする。

- ① 利用者には尊厳を持って対応する。言葉遣いには注意し、尊敬語、丁寧語で会話ができるようにすると共に、馴染みの関係の構築ができるように努め、コミュニケーションを図る。
- ② プライバシーに配慮する。身体介護（特に入浴・排泄介助）時には細心の注意を払い、利用者の意向に出来る限り沿えるよう対応する。
- ③ 整容には配慮する。衣類の汚染、起床時の洗顔には注意する。

3) ネットワークづくりの推進

袖ヶ浦市及び近隣市の行政並びに高齢者団体、医療機関、ボランティア、各種関係機関との連携を強化し、「地域に根ざした介護施設の拠点」であることを目標に、地域の皆様から信頼され、親しまれる施設づくりを展開していく。又、各介護事業所だけではなく、異業種の方々との交流を通して幅広いネットワークづくりに取組むよう努める。

4) リスクマネジメント

利用者及び家族からのサービスに対する要望・意見・苦情はサービスの見直しや向上の機会として捕らえ、潜在するニーズの聴取を相談業務中心に行い、業務改善の基礎とする。その為、今まで以上に積極的に利用者家族との連携、関わりを深めていく。また利用者の持つリスク、状態の変化については詳細にわたり報告体制を取り、施設に対する関心を高め、家族との信頼関係を構築する。

施設の取組みの中心として安全対策委員会にてヒヤリハット事例をはじめとする事故に関する情報の収集・分析を行い、相談職、介護職、看護職が常に連絡、連携をとり、多様な事故の防止に取り組んでいく。

利用者の重度化に際しては、嘱託医の意見を仰ぎ利用者の急な状態の変化、急変時に対応出来るよう介護職員に指導を行う。同時に家族には相談員より状態報告後、来所して頂き、医師より利用者の状態について説明を行い、理解を得ることにより、急変時のリスクマネジメントに備えることとする。

5) 身体拘束の廃止

身体拘束を事故防止対策として安易に正当化することなく、利用者の立場になってその人権を保障しつつケアを行うという基本姿勢の下で、介護を必要とする利用者のサービスの提供を行う。

こうしたことから、実際に身体拘束廃止に向けた取組みを「身体拘束廃止委員会」を中心に課題の解決に向け積極的に取り組む。

事故のリスクが高い利用者においては、事前に家族へ身体拘束の必要性と重要性を理解して頂くように努め、定期的な状況報告を行い、年2回の内部研修を実施する。

6) 感染対策

毎年インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症が多発する中、予防対応策として勉強会（年2回）を実施し、知識を習得する事により事前予防を図る。今後も委員会を中心に感染予防の徹底に努めていく。また家族にも面会時の手指消毒、マスクの着用を依頼する。

7) ユニットケアの構築

ユニット型特養として、事業所の特徴を効果的に活かした運営を行い、自立した生活、安心、安全な暮らしが実現できるよう支援する。
また、ユニットケアを展開できる人材の育成にも力を入れていきたい。

8) 職員の確保

職員の定着率の向上を目指していく。その為には快適な職場環境づくりが不可欠であり、職場全体の課題としていく必要がある。

9) 本部との連携強化

本部との連携を通じて、法人理念や実践を参考にしながら各業務の見直しを図り、より一体的な運営を目指していく。併せて同法人内の職員の交流や親睦にも力を入れていきたい。

10) 利用者の娯楽・外出機会の確保

年間行事においてはボランティア等の地域団体の受け入れを行い、又、日々のレクリエーション等により入居者同士の交流を深めるとともに入居者の健康増進を図っていく。

11) 地域貢献事業

袖ヶ浦市からの委託事業における積極的な参入をしていきたい。現在の取組み事業（だれでも介護教室、ウエルカフェ）の確立を実現し、地域住民との交流を図る。また、地域ケア会議等を通じ地域課題を汲みあげ、解決に向かっての相談及びマンパワーの派遣の実施を行う。

隣接する平岡学童保育との交流を図り、夏祭り、週1回の交流会を継続的に実施する。

2、各事業

(1)利用者サービス計画

1)利用者日課表

時間	月曜日～土曜日	日曜日
6:00	起床 洗面	起床 洗面
7:00	口腔体操	口腔体操
7:30	朝食	朝食
9:00	入浴・中間浴(月・木) 入浴・機械浴(火・金) 入浴・一般浴(火・金)	
10:00	ティータイム	ティータイム
11:30	口腔体操	口腔体操
11:45	昼食	昼食
13:30	レク	
14:00	入浴・中間浴(月・木)※隔週月曜 AMリハビリ 入浴・機械浴(火・金)※毎週木曜 PMリハビリ 入浴・一般浴(火・金) ラジオ体操	ラジオ体操 レクリエーション 水曜日:映画鑑賞会 日曜日:カラオケ
15:00	ティータイム 選択ドリンク	ティータイム 選択ドリンク
17:30	口腔体操	口腔体操
17:45	夕食	夕食
19:00	口腔洗浄	口腔洗浄
21:00	居室内消灯	居室内消灯
22:00	館内消灯	館内消灯

※日課については季節によって変更する場合があります。

2)利用者週課表

	午前	午後
日	選択ドリンク	フロアーレク カラオケ
月	入浴・中間浴 シーツ交換 リハビリ	入浴・中間浴 シーツ交換
火	入浴・機械浴・一般浴	入浴・機械浴・一般浴 高橋 Dr 回診
水	理美容サービス(第1・第3週) 音楽療法(第3水曜日)	フロアーレク 映画鑑賞会
木	入浴・中間浴	入浴・中間浴 リハビリ
金	入浴・機械浴・一般浴	入浴・機械浴・一般浴
土	選択ドリンク 誕生会(第3週)	おやつ作り(随時)

3)年間季節行事

	行事名		開催場所	対象者
4月	お花見	春の訪れを外気浴にて満喫する	施設玄関前	希望者
4月	鯉のぼり見学	日本の伝統行事を楽しむ	施設玄関前	希望者
5月～7月	菖蒲見学	利用者・家族・職員で公園を散歩し、皆でおやつを食す	近隣施設	希望者
7月	七夕	日本の伝統行事を楽しむ	各フロアー	希望者
7月～8月	ドイツ村花火鑑賞会	東京ドイツ村へ花火見学。季節感を堪能し、思い出作りを楽しむ	近隣施設	希望者
7月	納涼祭	利用者・家族・地域ボランティアと夏祭りを楽しむ	施設駐車場	希望者
7月	かき氷	夏の風物詩を感じ、季節を堪能する	各フロアー	希望者
8月	流しそうめん	利用者・職員で夏を感じ、そうめんを食す	1階ロビー	希望者
9月	敬老会	利用者・家族・ボランティアと長寿を祝う	各フロアー	希望者
10月	秋の収穫祭	秋刀魚を焼き秋を感じ季節感を堪能する	施設玄関前	希望者
11月	秋の運動会	各競技を実施、体を動かしたりフレッシュをする	デイフロアー 1階ロビー	希望者
11月	秋の収穫祭	地元で取れたさつま芋を利用者の目の前で焼く事で秋を感じる事が出来る	施設玄関前	希望者
12月	紅葉狩り	季節感を堪能し自然を楽しむ	近隣施設	希望者
12月	クリスマス会	利用者・家族・職員・地域のボランティアとクリスマス会を楽しむ	1階ロビー	希望者
1月	餅つき大会	餅つきを利用者の前で実演し、食すことで正月を感じる	施設玄関前 1階ロビー	希望者
2月	節分	日本の伝統行事を皆で行う	1階ロビー	希望者
3月	ひな祭り	日本の伝統行事を皆で行う	1階ロビー	希望者

※随時・外出レク（買い物等を検討）

6月・おにぎり作り・カップラーメン

随時・おやつ作り

(2) 生活援助計画

1) 個別援助の充実（介・看・栄）

- ① 入所前面接表、ケース記録、家族聞き取り等を参考に、入所前の生活歴、疾病等の把握に努める。
- ② 現在の生活習慣、身体状況等の問題点の整理、趣味や特技等をきめこまかに把握する。
ケースカンファレンス前に、利用者またはその家族の意向、要望確認を行い、ケアプランに反映させる。
- ③ 関係部署職員が中心となり、ケースカンファレンスを行い、ケアプランの作成を行う。また、利用者、家族の参加協力を求め、意見・要望等をケアプランに反映させる。
- ④ ケースカンファレンスにて決定したケアプランは利用者又はその家族に説明を行い、書面にて承諾を得る。
- ⑤ 各職員に対しケアプランの周知を行い、統一されたサービスを提供する。
一定時期にケースカンファレンスを開催し、実施経過を踏まえサービス内容の評価を行い、更に次の課題に取り組みサービスの向上に努める。

2) 食事介助（介・看・栄）

- ① 利用者が落ち着いた雰囲気の中で食事をとれるよう配慮する。
- ② 適温、適冷の食事を提供する。
- ③ 利用者個々の状態に合わせた自助具を活用し自立支援を図る。
- ④ 障害の状況に応じた介助を行い誤嚥等に注意する。
- ⑤ 利用者個々の食事形態に合わせて食事を提供する。
- ⑥ 食事摂取量の少ない利用者に対しては、各部署と協議する。
- ⑦ 間食、水分補給については利用者個々の状況に合わせ効果的に行う。

3) 排泄介助（介・看）

- ① プライバシーに注意し、出来る限り羞恥心を与えぬように配慮し介助する。
- ② 利用者の排泄パターンを把握し、オムツかぶれ、褥瘡、尿路感染症を防ぎ快適さが保てるように対応をする。
- ③ 利用者個々の状況や、本人の意向を十分配慮した上で適切な排泄介助用品を選択し自立援助を促す。
- ④ 利用者の排泄状況を日々把握する為、排泄記録表にてチェックを行い、問題がある場合には看護職員に連絡し適切な処置を行う。

4) 入浴介助（介・看）

- ① 入浴は週2回、機械浴、中間浴、一般浴に分けて実施する。
- ② 入浴の実施に当ってはプライバシーに十分配慮する。
- ③ 入浴は検温、血圧など身体状況を把握した上で看護職員と協議して実施する。
- ④ 欠浴された場合には必要に応じて清拭を行う。
- ⑤ 利用者がリラックスして入浴して頂けるよう配慮するとともに、安全面には特に気を配り実施する。
- ⑥ 入浴を好まず拒否する利用者については健康上、衛生上の面から、入浴の必要性を助言し合意を得られるよう努める。

5) 洗面介助（介）

- ① 利用者個々の状態に合わせてホットタオルで洗面介助を行う。
- ② 髭剃り、整髪、口腔ケア（起床時・就寝前）等身だしなみを整える。

6) 整容介助 (介)

- ① 昼夜の更衣を実施することにより、生活に張りを与えられるよう援助する。
- ② 衣類の選定は利用者の好みを十分尊重し、行事、外出等にふさわしい服装、おしゃれに気を配り、日常生活に潤いを持てるよう援助する。

7) 移乗介助 (介・看)

- ① 介助する際は転倒等の事故防止に努め、安楽な介助を行う。
- ② 利用者の状況に合わせて介助を行い、残存機能の活用ができるよう援助する。

8) 洗濯介助 (介)

- ① 洗濯物は毎日各居室指定の場所に出して頂き、洗い、乾燥を行う。
- ② 洗濯物の誤配、紛失には責任を持って対応する。

9) 清掃・居室内整理 (介)

- ① 定期的に館内の清掃に努める。
- ② 居室カーテンは汚れる都度、随時洗濯を行う。
- ③ リネン交換は週に1回、実施する。また、布団、マットの天日干しを行う他、ベッド本体の清掃、消毒を定期的実施する。
- ④ 利用者と職員が日頃から居室タンス等の荷物整理に努め、衣替えの季節には衣類の入れ替えを家族と共に行う。

10) 利用者の健康管理 (介・看・栄)

利用者の健康管理を日々の健康チェックを通して、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めていく。

① 定期的健康管理

嘱託医 高橋医院 高橋 正典
入院協力病院 袖ヶ浦さつき台病院
定期的診察

曜日	頻度	診察内容
火曜日	毎週	内科・外科・精神科

※この他、利用者の状態により近隣医療機関に受診することあり。

- ・利用者の健康診断を年1回実施し、検査や受診は必要に応じ個別対応とする。
 - ・毎日のバイタル、栄養、排泄、睡眠、皮膚状況、痰の絡み等のチェックを行う。
 - ・糖尿病利用者へのインシュリン注射の実施。
 - ・利用者の健康状態については、積極的に主治医より家族に説明をする機会を設け連絡を密にすることにより理解と協力を求める。
 - ・健康な身体に必要な水分、1日 1,000 cc を目標に利用者個々の状態に応じて摂取できるよう援助する。
 - ・日頃から転倒防止に努め、骨折しないよう気を配る。
 - ・便秘対策として、牛乳・ヨーグルト・ビフィズス菌を状態に応じて提供する。
- ### ② 健康促進
- ・必要に応じて関係職員と相談しながら寝食分離を心がける。
 - ・医師と看護職員による身体的、精神的指導に努める。

③ 感染予防

- ・MRSA、肺炎、疥癬、インフルエンザ、食中毒、ノロウイルス等の感染症については各団体研修会や嘱託医による正しい知識の予防に努め、その対策として早期検査の実施、予防薬を用いての処置や予防接種等を実施し、院内感染の予防に努める。
- ・整理整頓に努め、清掃の強化を図り、手洗い・うがいの励行に努める。

④ 医薬品の管理

- ・利用者の処方薬、施設常備薬、施設内で使用する薬品等においては、薬品受払い簿にて管理を明確にし、薬品庫にて厳重に管理する。

【利用者の処方薬、常備薬】

- ・医務室内にある薬品庫に施錠にて保管

【施設常備薬】

- ・医務室、事務室に職員用常備薬を救急箱に保管して管理

【施設内で使用する薬品】

- ・医務室内にある薬品庫にて施錠して保管し、使用する際は必ず受払い簿を記録し、使用目的を明確にする。また、各階の薬品については薬品庫にて施錠し保管する。
- ・医薬品の管理については定期的に在庫調査を実施する。

⑤ 館内消毒・害虫駆除

- ・年間を通し、季節の変わり目等に水周り・厨房等の消毒を行い、施設内の衛生管理を行う。

11) 機能回復訓練（介・看）

機能回復訓練は機能訓練指導員（看護師）及び袖ヶ浦さつき台病院理学療法士（派遣）の下、ADLの維持・向上に努める。また、日頃行う訓練が日常生活にリンクできるよう各部署職員と連携をとりながら実施していく。

12) 趣味・生きがい活動（介）

施設生活の中でクラブ活動、レクリエーション活動、行事等を通して個人の趣味や特技を引き出し、毎日の生活に変化と潤いを与え、生きがいを持つよう援助する。

① フロアーレク（レクリエーション）

娯楽や趣味教養活動別にいくつかのグループを作り、ユニット単位、少人数で職員が中心となり、レクリエーションを行う。

② 視聴覚機器の活用

各ユニットの大型テレビ・ポータブルラジカセ・DVD・カラオケ・映画の活用。

13) 喜ばれる食事の提供と栄養相談（栄・看・介）

利用者にとって毎日の食事は楽しみのひとつであり、素材を活かした季節感のある食事の提供と利用者の健康に留意した献立の充実を図る。また、給食会議や嗜好調査での利用者の声を反映させた食事内容の充実を図る。

① 献立の検討

給食会議や調理員との話し合い等で献立の改善点を検討していく。

② 栄養相談

食欲減退者、体重、筋力減少等による低栄養者に、関係職員と相談しながら食事相談、指導を行う。

③季節行事食一覧

	行事名	献立		行事名	献立
4月	花見	お花見御前	11月	収穫祭	秋の味覚御前
5月	端午の節句	鯉のたたき 他	12月	クリスマス会	ワンプレート洋食
6月	千葉県民の日	郷土メニュー	1月	元旦	おせち盛り合わせ
7月	七夕	七夕そうめん 他		新年会	セレクトメニュー (
8月	土用の丑	うな玉丼 他	2月	節分	巻き寿司
9月	敬老会	赤飯・天ぷら 他	3月	桃の節句	雛ちらし 他
10月	秋のイベント	お楽しみ昼食			

- ・季節の行事に合わせた食事を提供する。
- ・誕生会の日（毎月第2・土曜日）は間食にケーキと紅茶を提供する
- ・毎日午後に「選択ドリンク」を実施し、利用者の好みの飲み物を提供する。
- ・定期的に利用者参加型の「手作りおやつ」を実施する。

(3) 介護支援計画

1) 生活援助は利用者毎のケアプランに沿って行われるが、高齢の利用者においては疾病、加齢等により心身の状態が著しく変化することもありえるので、利用者の状態に変化のあった時は、関係部署による検討を行い、家族の意向も取り入れた上で随時変更を行っていくこととする。

① 感染対策

インフルエンザ、疥癬等に感染した利用者に対しては、感染対策マニュアルに沿い、利用者の心身の負担軽減、早期治癒を目指した計画を立案する。また他利用者及び家族・職員への二次・三次感染防止に努める。

② 医療機関からの退院

医療機関へ入院されていた利用者が施設へ退院された際には、ムンテラ及び情報提供により、心身の状態把握をし、本人の状態に合ったサービス内容を関係職員にて再度カンファレンスを開催し検討する。

2) ケースカンファレンスの開催

① 定期的にサービス計画の検討、評価、見直しを他職種共同で行う。

ケアに直接かかわっている全ての職種が参加し、利用者や家族の基本的な情報を共通理解し、提供するサービスや問題、課題について具体的に検討しサービスの調整を図る。又、利用者や家族の意見、要望をサービス計画に反映し共有化する。

② 施設サービス計画の作成

在宅でサービスを利用して生活している要介護者の方に比べ、施設に入所されている利用者の方たちは機能障害や能力障害が重度化し、生活の課題も複雑である。プランの作成にあたっては、利用者本人や家族の希望・思いを尊重した生活のニーズを導き出し、ニーズに沿った支援目標や援助内容を明らかにし、看護師や介護士、栄養士、相談員等の他職種でのチームアプローチにより個々の利用者に対して個別に作成する。作成したサービス計画書については、本人や家族に説明を行い同意をとる。

(4) 防災計画

火災もしくはその他の災害が発生した場合、被害を最小限にとどめるために日ごろから防災意識を高め、いざという時に備える事を目的とする。消防法の規定に定める防災設備の整備をはかるとともに、消防計画、防災計画の作成及び自衛消防隊の整備に努め、利用者の生命と財産の保全に万全を期します。緊急災害時に職員が迅速かつ的確に行動できるよう、防災訓練は、教育、訓練を中心に計画し、実施する。又、消防署の協力を得ながら実演（煙体験・消火器・心肺蘇生（AED）等）の指導を依頼し防災、連携を強化する。

夜間体制においては職員数が少なくなり、混乱を招く事が想定される。事前に夜間想定 of 災害訓練を実施し緊急時に備えたい。今後あらゆる災害が予測される中で、地震・風水害対策においても今年度においては積極的に取組み、迅速な対応が行えるように万が一に備えたい。

1) 防災訓練計画

年3回（夜間想定1回）消防避難訓練を実施し、職員、利用者共に防災の意識を高めていく。

2) 防災委員

・組織者名簿

区分	職名	備考
委員長	施設長	自衛消防隊長
副委員長	事務長	自衛消防副隊長
	生活相談員	自衛消防隊指揮班
	介護主任	自衛消防隊通報連絡班
	介護副主任	自衛消防隊消火班
	看護主任	自衛消防隊救護班
	事務員	自衛消防隊重要書類 搬出班
	管理栄養士	自衛消防隊消火班

・組織表（昼間）

自衛消防隊隊長 施設長 自衛消防隊副隊長 事務長	指揮班	生活相談員
	通報連絡班	介護職員・事務員 介護支援専門員
	消火班	日勤介護職員
	避難誘導	日勤介護職員 調理員
	救護班	看護職員
	重要書類搬出班	事務員 管理栄養士

・組織表（夜間）

宿直者	2階夜勤介護職員	初期消火・避難誘導・通報
	3階夜勤介護職員	初期消火・避難誘導・通報

(5) 会議

施設運営が円滑に行われるよう次の会議を設置する。

1) 運営会議

施設の運営全般について各部署の主任、リーダーの意見を求め、運営方針の確立と各事業の推進を協議することを目的とする。

2) 職員会議

施設における運営方針を確立するにあたり広く一般職員より意見を聴取、また、各部署からの連絡事項の周知徹底を目的とする。

3) ユニットリーダー・フロアー会議

該当部署、ユニットにおける問題点の整理、協議、検討を行い、また、連絡事項の周知徹底を目的とする。

4) ケースカンファレンス

関係部署職員による利用者生活上、処遇上の問題を把握し、協議、検討を行い、また、連絡事項の周知徹底を目的とする。

(6) 委員会

施設運営が円滑に行われるよう次の委員会を設置する。

1) 身体拘束廃止推進委員会

身体拘束ゼロを現実のものとするために介護現場での対応策を明らかにする事を目的とする。

2) 安全対策委員会

様々な場面での介護事故が想定される中、状況報告書を基に統計をとり利用者個々のニーズに合わせた対策を検討。未然に事故の予防が出来る環境を整えることを目的とする。
また、福祉用具、装具等の検討を行い、利用者の QOL の向上に繋げる。

3) 感染委員会

施設内における感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する。
感染症対策についての内部研修の企画、運営を担当する。

4) 食事に関する委員会

利用者の食事に関して、より楽しく食事摂取をできる環境の整備と毎日の食事より利用者の「声」を反映させ、食事内容の充実と栄養状態、食事介助の向上を目的とする。

5) 排泄に関する委員会

個々の残存機能を考慮したより快適な排泄介助の方法を確立する事を目標とする。

① 排泄介助マニュアルの見直し、改正

② オムツ外しに向けた取組み

③ 個別の排泄パターンの把握に努める

④ オムツ在庫管理・発注方法の見直し

6) 入浴に関する委員会

一般浴、中間浴、機械浴について、利用者にとってより快適で安全な入浴介助方法を確立することを目的とする。

① 入浴介助マニュアルの見直し、改正

② 入浴環境の整備、管理

7) 防災委員会

防災訓練等の計画、準備、実施、反省を防災計画に沿って行うことを目的とする。

8) 物品に関する委員会

利用者が生活しやすいように、また業務が円滑に行われるように必要物品の整理、整頓を行うことを目的とする。

- 9) **行事委員会**
各行事の計画、準備、実施を中心に行う。
- 10) **入所検討委員会**
入所に関する指針を基に優先順位を出し、上位の方からの入所を基本とし必要に応じて委員会を開催し、特養入所の透明性を確保し公平な施設入所を目的とする。また、空床が出た場合の迅速な入所を目的とする。
- 11) **個人情報保護推進委員会**
「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」に従い、個人データの安全管理について定期的に自己評価を行い、見直しや改善を行うべき事項について適切な改善を行うことを目的とする。
- ① 個人データを取り扱う職員の啓発を図り、職員の個人情報保護意識を徹底する。
 - ② 保有個人データの開示手順を定めた規程、その他個人情報保護に関する規定を整備する。
 - ③ 個人情報の取扱いについての苦情相談窓口を設置する。
 - ④ 不要となった個人データを破棄する場合の対応の決定。

(7) 実習生受入れ

高齢社会の中で社会福祉の仕事に携わる人材の育成は急務であり、これに可能な限り応えるべく施設として多くの実習生を受け入れ、マンパワーの育成に協力していく。

(8) 研修計画

下記の研修に参加しながら、福祉施設の職員として資質の向上を図り職務に自信と誇りを持ち、日々のサービスに活かせるように努める。

1) **施設内部研修**

内部研修は、全職員の資質向上を図るため、外部より得た知識を公表する他、各委員会より施設独自の研修も行う。

また、外部関係機関より講師を招きより専門性の高い研修の実施を行う。

① **新規採用職員研修**

オリエンテーション、各部署業務研修・研修レポートを通して、福祉施設職員としての自覚を持たせる。

② **介護技術研修**

介護職員を中心に介護技術と知識について学習する。

③ **医学的知識研修**

看護職員を中心に、医学的知識を学習する。

※施設内部研修計画

月	研修内容	月	研修内容
4月	就業規則について	10月	感染対策
5月	食中毒の危険性と対策	11月	身体拘束について
6月	虐待防止・身体拘束について	12月	ケアプラン作成
7月	KYT（危険予知）訓練	1月	移乗介助の仕方
8月	認知症について（認知症サポーター研修）	2月	接遇について
9月	記録の書き方について	3月	ユニットケアについて

2) 施設外部研修

①介護職

介護技術基礎研修Ⅰ・介護技術基礎研修Ⅱ・身体拘束基礎研修・身体拘束専門研修
ユニットリーダー研修・認知症研修・口腔ケア研修・新人職員研修・中堅職員研修
転倒転落事故防止研修・排泄ケア研修・口腔ケア研修他

②看護職

新人職員研修・摂食嚥下障害研修・感染症研修他

③介護支援専門員

スキルアップ研修・アセスメント研修・サービス提供者研修・ケアマネ支部研修

④栄養士

食事ケア研修

⑤生活相談員

苦情対応研修・リスクマネジメント

(9) 家族・地域社会との交流

家族との連携強化を図り日頃の面会を促進させるほか、諸行事を通じ、家族・地域住民・ボランティアとの交流を図り地域社会とのつながりを持てるように援助する。

1) 家族との交流

- ① 利用者の精神的安定を図る為には家族の協力は不可欠であり、相互の信頼関係を築き、共に援助するという意識づくりに努める。
- ② 家族懇談会を開催し、多くの家族との意見交換を行う。
- ③ 担当職員より家族へ定期的に連絡をし、利用者の近況や行事の案内、現在取り組んでいる事項を伝え、施設運営の理解と協力を促進させる。

2) ボランティアの育成

- ① 施設としてボランティアの育成にあたり、地域に開かれた施設作りに努める。
- ② 様々な面で利用者の生活援助に貢献されているボランティアの方々に対し、常に感謝の気持ちを持って対応し、信頼関係を築くように努める。
- ③ ボランティア活動の受入れを利用者処遇に活かしていくよう努める。
- ④ 利用者職員が日頃のボランティア活動に感謝の気持ちを表して接していく。

3) ボランティアの活動内容

①音楽療法

音楽・歌会・民謡

②行事手伝い

③納涼祭屋台出店・収穫祭

④介護支援ボランティアの受け入れ（傾聴ボランティア（袖ヶ浦市社会福祉協議会）

4) 地域社会との交流

① 平岡小学校との交流

施設体験学習を通して交流を図る。合奏演奏の披露。運動会の見学

② 平川中学校との交流

福祉体験学習を通して交流を図る

③ 野里子ども会・上泉こども会との交流

納涼祭での太鼓演奏、盆踊りなどでの交流を図る

④ 君津信用組合との交流

納涼祭での屋台等の手伝いを通して交流を図る。研修依頼

⑤ 槇の実特別支援学校との交流

福祉体験学習を通して交流を図る

⑥ 地域団体との交流

各地域老人会での施設説明会。サークル活動団体の行事参加を通して交流を図る

⑦ 「ひらかわオレンジカフェ・ウエルカフェ」の運営

⑧ 百歳いきいき体操講師派遣、及び実施場所の提供

- ⑩ ふくた保育所との交流
園児の鼓笛の披露、及び交流会
- ⑪ 家族介護支援事業
地域住民への介護教室の開催（年4回）及び実施場所の提供
- ⑫ 地域ケア会議への参加
- ⑬ 平岡小学童保育との交流（週/1回）夏祭りへの屋台出店

(10) 職員の福利厚生

利用者が明るく安心して楽しい生活が送れるよう援助する為には、職員自身が十分な健康管理を行い、特に心身の安定を図る必要性がある。その為には職員の福利厚生の充実を図る必要があり、下記の項目を実施する。

- 1) 定期的健康管理
健康診断を実施し、職員一人ひとりの健康状態の把握、疾病の早期発見、早期治療に努めていく。
 - ①深夜業務従事者（夜勤者）は年2回、その他の職員は年1回の健康診断を行い、検査結果の如何によっては再検査等を嘱託医の指導のもとに行っていく。
 - ②調理関係職員は月1回の細菌検査を実施し、利用者に対する衛生に注意をする。
- 2) 健康増進
職員の親睦を深め、職員旅行、各種レクリエーションでの心身のリフレッシュを図り、健康の増進を図る。

3、職務分担表

(1) 職務分担表

職名	業務内容
施設長	業務の統括・管理指導・財産管理・本部との連携等
事務長	公印・給料・労務管理・職員人事・国保請求
事務員	文書・刊行物の取扱い・物品購入・運用・管理伝票作成・小口現金の管理
介護支援専門員	ケアプランの作成・認定調査・給付管理業務・他事業所との調整 袖ヶ浦市地域包括支援センターのランチ・地域貢献事業
生活相談員	協力機関・家族・利用者の連絡調整・生活相談・対外事務・ 入所・退所の連絡調整・利用者処遇の企画・実施・請求業務・地域貢献事業
介護主任	利用者の日常生活全般についての介護及び介護業務全般についての取扱い
介護副主任	介護主任補佐、書類管理、ユニットケア、新人職員に係る業務全般
介護職員	利用者日常生活の全般についての介護、及び各種行事等の企画
看護主任	嘱託医等の連携及び看護業務全般についての取扱い
看護職員	利用者の健康管理・日常生活援助・医療処置・病院受診等
機能訓練指導員	看護職が主体となり、利用者・通所者のリハビリに係る全般
管理栄養士	調理業務総括・保健所等への連絡調整・給食物品の検出及び保管等
調理員	利用者食事の調理等（委託）

瑞穂特養ホームショートステイ

短期入所生活介護利用者は、介護保険で要支援1～要介護5までとなっている。在宅生活を続ける要介護高齢者の家族は24時間の介護から開放されることが少ない。そのため、心身の疲労から休養したい、旅行に行きたい等の私的理由や、疾病、冠婚葬祭等の社会的理由から在宅生活での生活が困難な場合に、ご家族に代わり、一時的に数日間、利用者をお預かりする。在宅生活での延長線上にホームでの生活援助があると認識し必要なアセスメントを行いながら、ご家族の協力を得て短期間の援助を実施する。

利用ベット数 10床

(1) アセスメントの体系化及び契約書の整備

- ① 短期入所生活介護の位置づけを「在宅生活の延長」というように考えるのであれば、在宅での生活ペースが入所している間も維持できなければならない。利用の都度、それらのペースが継続維持できる様、アセスメントを体系化させていくため、必要書類の整備を段階的に行う。
- ② 介護保険制度=契約制度ということから。利用者とサービス提供者との関係を明確にしなければならないが。短期入所生活介護利用者においては昨年同様、それらの作業を「契約書」「契約書別紙」「重要事項説明書」を用いて段階的に行っていく。また、短期入所者生活介護サービス計画については各事業所と連携を密にし、利用者家族のニーズを的確に把握しながら順次作成して行く。

(2) 利用申込

- ① 毎月、月初めに各事業所担当介護支援専門員より申込みを受付ける
- ② 希望に沿い、当施設の介護支援専門員が調整に当たる
- ③ 緊急の短期入所利用申込があった場合には、希望に沿えるよう調整し、可能な範囲で受け入れる
- ④ 初回利用の方に関しては、日常生活状況・介護状況が把握できない為、事前面接調査を行った上で、短期間の試用を依頼する

(3) 緊急時対応

- ① 短期入所利用中に状態の急変があった場合は、速やかにご家族・担当介護支援専門員に連絡し、必要な対応を取る。
- ② 家族より、受診医療機関の指定が無い場合は、嘱託医・協力病院に依頼する。
- ③ 袖ヶ浦市生活支援短期宿泊事業委託の受け入れ。

(4) 短期入所者施設サービス計画書

短期入所者生活介護利用者に対しても、4日以上の利用については施設サービス計画書の作成が必要とされている。サービス担当者会議への参加、各事業所の介護支援専門員の協力を得て、利用者及び、家族のニーズを的確に把握しながら計画の立案を行っている。短期入所生活介護利用開始日の送迎時に家族への短期入所生活介護計画書の説明を書面をもって行い、計画書への同意のサイン、捺印をいただく。

- ① 短期入所時における利用者、家族のニーズの把握。利用者の実態把握
- ② 施設サービス計画書原案作成
- ③ 家族確認。施設サービス計画決定
- ④ 施設サービス計画書交付
- ⑤ サービス提供実施

瑞穂デイサービスセンター

1、事業目標

職員全員が地域に密着し、安心と信頼が得られるような事業運営を目指し、「地域に貢献する福祉事業」の展開を図る。サービス提供にあたっては、常に利用者本位を心がけ、利用者や家族が求めるニーズを模索、検討し、より良い生活を送る為のサポートを行っていく。

2、事業内容

(1) 利用者確保

通所 20 名を定員とする。主に袖ヶ浦市、木更津市、君津市、市原市（一部地域）をサービス提供地域とする。サービスの質の向上を目指すと共に、地域行事等へ積極的に参加し、事業所の役割をより広め、既存利用者、新規利用者の拡大に努めたい。

また、利用者、家族のニーズに対応できる体制の確保を検討し、利用者の確保に繋げたい。

(2) 個別ケアの充実

ケアマネジャーの作成する居宅サービス計画より一人ひとりの利用者の身体状況、精神状況・利用目的の把握に努め、センターで作成する通所介護計画書に沿った援助を行う。

また、理学療法士の指導の下、計画的に個別機能訓練加算取得に向けて取り組む。

計画的に集団活動の中に利用者の要望に合った個別的なサービスを展開し内容を充実させる。サービスの提供にあたっては高齢者の尊厳に配慮する。

「サービス利用開始前」「サービス提供中」「サービス終了後」のきめ細かい報告を利用者、家族、ケアマネジャーに行い、安心して利用できる事業所としての信頼関係を構築する。

(3) 健康管理と保養

看護職員等による活動開始前のバイタルチェックや利用者または家族からの聞き取りにより受診状況を把握する。職員個々が利用者の様子を観察し、気がついたことは他の職員に連絡、協力し合って体調異常等の早期発見に努める。

入浴は一般浴、中間浴から利用者の ADL に合わせた方法で行う。利用者、家族からの入浴希望はとて多いが、一人ひとりゆっくり入浴してもらうために入浴回数は利用者や家族の希望にできる限り副うように心がけながら調整を行う。また、欠席があった場合はできるだけ代替日を調整する。感染症の対処方法を職員が熟知し入浴後の消毒や日常の活動の中で常に注意し、感染予防に努める。

(4) チームワークの確立

瑞穂デイサービスセンター職員としての共通理解のもと、利用者へのより良いサービス提供ができるよう、常勤・非常勤の区別なく全員で活発かつ、前向きな話し合いができる場を月に 1 回定期的に開催する。日常的には朝礼、夕礼を行い、業務内容・注意事項などの確認をして共通理解を図る。常に職員相互にコミュニケーション（報告・連絡・相談）に努めながら、活動のあらゆる場面お互いに協力し合い職員全体でデイサービスセンターを作り上げる意識を高める。

(5) 職員研修の推進

デイサービスセンターの職員として、専門性をより高めより良いサービスを提供し、地域から安心と信頼が得られる事業運営ができるよう職員研修を行う。内容としてはサービスマナー、認知症高齢者の思いや行動特性、対処方法、高齢者のペースでゆっくり安心感のある対応など個別ケアのあり方、介護技術、利用者・家族・地域住民からの相談に対応できる相談面接技法、介護保険制度、介護保険外の福祉サービス、虐待防止や悪質商法など高齢者の権利擁護、地域の社会資源などの研修を年間計画に立て実施する。これらの研修は業務全体の中で大切なものと位置づけ、テーマによっては外部講師を要請したり職員が講師になり、繰り返し実施する。

(6) 生活援助計画

1) 個別援助の充実

- ① 面接シート、ケース記録、家族聞き取り等を参考に通所前の生活歴、病歴等の把握に努める。
- ② 現在の生活習慣、身体状況等の問題点の整理、趣味や特技等をきめ細やかに把握する。
- ③ 通所介護職員全員がケースカンファレンスを行い、個別処遇方針の作成を行う。また、利用者、家族の参加協力を求め、意見・要望等をケアプランに反映させる。
- ④ 通所職員に対しケアプランの周知を行い、統一されたサービスを提供する。
- ⑤ 一定時期にケースカンファレンスを開催し、経過報告、サービス内容の評価を行うとともに、更に次の課題に取り組みサービスの向上に努める。

2) 食事介助

- ① 利用者が落ち着いた雰囲気の中で食事が摂れるよう配慮する。
- ② 適温の食事を提供する。
- ③ 利用者個々の状態に合わせた自助具を活用し、自立援助を図る。
- ④ 障害の状況に応じた介助を行い誤嚥等に注意する。
- ⑤ 利用者個々の食事形態に合わせて食事を提供する。

3) 排泄介助

- ① プライバシーに注意し、できる限り羞恥心を与えぬ様に配慮し、介助する。
- ② 積極的にオムツはずしに取り組み、自然排便を促すよう援助を行う。
- ③ 利用者の排泄パターンを把握し、オムツかぶれ、褥瘡を防ぎ快適さが保てるように対応をする。
- ④ 利用者の排泄状況を日々把握するため排泄記録表にてチェックを行い、問題がある場合には適切な処置を行う。

4) 入浴介助

- ① 入浴は中間浴、一般浴に分けて実施する。
- ② 入浴の実施に当たっては、ドア・カーテン等で異性に配慮する。
- ③ 入浴は検温、血圧など身体状況を把握した上で実施する。
- ④ 欠浴された場合には必要に応じて清拭を行う。
- ⑤ 利用者がリラックスして入浴ができるよう配慮するとともに安全面に細心の注意をしながら、実施する。
- ⑥ 入浴を好まず拒否する利用者については健康上、衛生上の面から、入浴の必要性を助言し、合意を得られるよう努める。

5) 移動介助

- ① 介助する際は転倒等の事故防止に努め、安楽な介助を行う。
- ② 利用者の状況に合わせて介助を行い、有する能力の活用ができるよう援助する。

6) 清掃・整理整頓

- ① 施設内を定期的に清掃する。
- ② リネン交換は週に1回、金曜日に実施する。また、布団、マットの天日干しを行うほか、ベッド本体の清掃、消毒を定期的実施する
- ③ 利用者職員が日頃からロッカーや衣装等の荷物の整理整頓に努める。

7) 利用者の健康管理

- ① 利用者の健康管理を日々の健康チェックを通して、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めていく。
 - ・健康な身体に必要な水分、来所時 700cc を目標に利用者個々の状態に応じて摂取できるよう援助する。
 - ・日頃から転倒防止に努め、骨折しないよう気を配る。
- ② 健康の促進
 - ・職員による身体的、精神指導に努める。
- ③ 感染予防
 - ・MRSA、肝炎、疥癬、インフルエンザ、食中毒の感染症については各団体研修会等により正しい知識の予防に努め、その対策として、早期検査の実施、予防薬を用いての処置や予防接種等を実施し、院内感染の予防に努める。
- ④ 医薬品の管理
 - ・利用者の処方薬においては、デイフロアー、薬品受に入れ管理を明確にする。
- ⑤ フロアーでの機能訓練の実施
 - ・毎日 PM2 時より、機能訓練等を実施する。

(7) 会議

施設運営が円滑に行われるよう、次の会議を設置する。

1) 職員会議（朝礼・夕礼）

施設における運営方針を確立するにあたり、広く一般職員より意見を聴取、また連絡事項の周知徹底を目的とする。

2) ケースカンファレンス

通所職員による介護サービスの検討、評価、見直し、又、ケアプランの周知徹底を図る。

3) 介護会議（月1回）

施設における運営方針を確立するにあたり広く一般職員より意見を聴取、また、各部署からの連絡事項の周知徹底を目的とする。

(8) 研修計画

下記の研修に参加しながら、福祉施設の職員として資質の向上を図り、職務に自信と誇りを持ち日々のサービスに活かせるように努める。

1) 施設内部研修

職員の資質の向上を図るため、内部研修を行う。

① 新人職員研修

管理者及び現従事者に同行し、現場職員に必要なスキルを習得させる。

② 接遇研修

福祉施設職員として利用者や家族等への接遇について学習。

③ 介護技術研修

介護職員を中心に介護技術と知識について学習。

2) 施設外部研修

各職種別研修及び研究会へ積極的に参加し、見聞をひろげ職務に反映させる。他施設の視察、実習も必要に応じて実施していく。

(9) 家族・地域社会との交流

家族、地域住民、ボランティアとの交流を図り、地域社会のつながりを持てるように支援する。

1) 家族との交流

- ① 利用者の精神的安定を図るためには家族の協力は必要不可欠であり、相互の信頼関係を築き、共に援助するという意識作りに努める。
- ② 連絡ノートにより、家族との交流を図る。

2) 地域社会との交流

- ① ボランティア受け入れ
関係機関による市内住民を対象としたボランティア受け入れを実施し、利用者との交流を通して施設の理解を深める。

(10) 職員の福利厚生

職員の福利厚生の充実を図るため、下記の項目を実施する。

1) 定期的健康管理

健康診断を実施し、職員一人一人の健康状態の把握、疾病の早期発見、早期治療に努めていく。

2) 健康増進

職員親睦会の旅行、スポーツ大会等の懇親会を実施し、親睦を深め、心身にリフレッシュを図り、健康の増進に努める。

(11) レクリエーション年間計画

	午前	午後		午前	午後
4月	体操 アクティビティ	お花見	10月	体操 アクティビティ	秋の収穫祭
		壁画			壁画
		カラオケ			買い物外出
5月	体操 アクティビティ	バラ見学	11月	体操 アクティビティ	紅葉狩り
		ちぎり絵			クリスマス飾り作り
		買い物外出			カラオケ
6月	体操 アクティビティ	あじさい見学	12月	体操 アクティビティ	クリスマス会
		七夕飾り作り			ちぎり絵
		カラオケ			正月飾り作り
7月	体操 アクティビティ	納涼祭	1月	体操 アクティビティ	餅つき大会
		七夕			初詣
		玉入れ			食事会
8月	体操 アクティビティ	流しそうめん	2月	体操 アクティビティ	節分
		盆踊り			玉入れ
		回想法			梅見学
9月	体操 アクティビティ	敬老の祝賀会	3月	体操 アクティビティ	菜花摘み
		カレンダー作り			梅見学
		ぶどう狩り			ちぎり絵

地域包括支援センターのランチ
袖ヶ浦瑞穂

1、事業目的

袖ヶ浦市地域包括支援センターが行う事業のうち、高齢者や家族に対して総合的な相談・支援をする為の初期段階での窓口となり、センターと連携を図りながら地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援する事を目的とする。

2、業務内容

(1) 基本事業

- 1) 在宅介護等に関する各種相談に対し、電話、面談、訪問等の適切な方法により総合的に応じる。
- 2) 各種保険福祉サービスの利用方法等に関する情報の提供を行う。
- 3) 事業実施に必要な台帳を管理し、これを適切に管理する。
- 4) 地域包括支援センターと連携を図るため、定例会に出席する。
- 5) その他、袖ヶ浦市長が必要と認める事業を行う。

(2) 加算事業

1) 実態調査業務に関すること

袖ヶ浦市に住所を有する概ね65歳以上の独居高齢者、高齢者世帯宅、並びに袖ヶ浦市長が必要と認めた世帯を訪問し、実態把握票により心身の状況及びその家族の状況等の実態を把握する。

(3) 委託料

- 1) 基本事業運営費 年間、1,350,000 円
- 2) 実態調査（把握） 1件あたり、2,700 円

(4) 利用対象者

利用対象者は袖ヶ浦市に住所を有する概ね65歳以上の高齢者及びその家族等。

(5) 職員の配置

社会福祉士等のソーシャルワーカー、保健師、看護師、介護福祉士、介護支援専門員の職種の中から原則1名以上を配置する。また、地域包括支援センターのランチを運営するにあたり、ランチ管理責任者を定める。

(6) 業務時間

24 時間 365 日の相談を受付ける。もし担当職員が不在となる時は、併設する職員との連携により対応する。